



社会教育担当 村重 勝也さん

移住者インタビュー

あけましておめでとう... 北海道長沼町に移住して3度目の新年です。協力隊の任期も残り4か月。我が家は長沼に永住のつもりですが、任期後の生活手段が心配だなぁ...

それはさておき、今月は久々の移住者インタビュー(第5回かな?)です。長沼町在住約15年、移住者の先輩であるKさんご夫婦にお話を伺いました。

50代半ばのKさん夫婦は我が家と世代も近く、また北海道に移住しようと考えた経緯も似ていて何だかとても親近感を持ちました。バイクや自転車のツーリングが趣味だったというのにも似ています。奥さんは岐阜、ご主人は大阪の出身で、名

古屋で出会い結婚、ご主人の転勤で札幌勤務となり、その後約12年の北海道生活。再び本州方面への転勤が迫った時点で夫婦ともども迷わず移住を決断したそうです。

移住には、仕事や住居、生活の利便性や交通アクセスなど現実的課題が伴います。そしてそれがうまくいかないケースも多い。ただ実際に移住を決行してしまえば人を見ると、これは私自身もそうですが、うまく言葉にできない「勢い」のようなものが決め手だったりします。Kさんの場合、北海道で暮らすなかで、「北海道人」の人から、人の良さにふれたことが何よりの決め手だったと言います。

意外な話かもしれませんが、都会の暮らしには見栄の張り合いや横並び意識がつきもので、自由にモノが言えない環境圧力はけっこう強いものがあります。北海道人は概してオープンで自由な物言いをする人が多く、それがKさんには圧倒的な暮らしやすさを感じられ

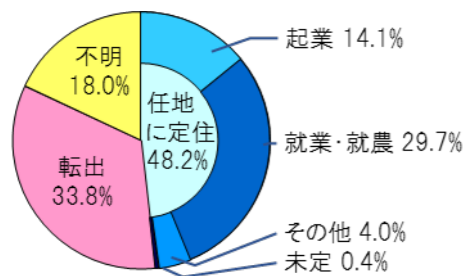
たそうです。私もそれは同感で、移住後ストレス性の胃炎はピタッとなくなりました。(食べ過ぎの胃炎はあるけど...)人の気持ちは住む場所と無関係ではありません。都会は人が多すぎるのです。人口密度のアンバランスは人の生活を知らず知らずむしばむものだと思います。人がオープンな気持ちになるためにはやはり広い大地が必要なのかもしれません。



図々しくもKさん宅の窓からの眺望を見せていただきました。1年中、日々変化する夕日が一望できる長沼随一といっ

し協力隊の成功事例と違ったものが流布しています(興味のない方には縁がない話ですが、我々はけっこう気にします)。そこでは、若者が次々と着任しているとか、インターネットの動画配信が好評だとか、新しく起業したとか、とかく華々しい物語が強調されがちです。その一方で地道に地域経済を押し広げた活動や、残念ながら地域を去った方々のことは語られません。

こうした事例に気を取られるあまり、我々自身の目標や周囲の期待がゆ



地域おこし協力隊定住状況 (H29.9 総務省公表資料)

がんできているように思えます。たとえば、評価の対象が短期的な情報発信やイベント開催、知名度の上昇に偏る、起業や資金調達といった手段が目的とすり替わる、などなど。そして、定住できなかつた方々を忘れることで、これらのゆがみによる失敗から目を背けているのではないのでしょうか。それがさきに述べた疑問の中心です。

もちろん、情報発信やイベントによって定住や地域振興が実現するかもしれない。また、こうした活動が得意な方を否定するつもりはありません。ただ、冒頭で説明した厳しい現実もあり、自分、たとえ目立たなくても地域に定住することを優先してきました。おそらく先輩の一方も、同様に堅実な活動方針を採られてきたものとお見受けします。



移住・定住担当 野口 崇さん

【1年になりますよっ!】

皆さんあけましておめでとうございます。移住・定住サポートの野口です。12月の中旬にこの原稿を書いています。が非常に暖かい冬で大変過ごしやすく感じています。

スキー場はこの暖冬の影響でオープンが遅れており、いつもなら雪で閉鎖するゴルフ場は現時点でもプレーできるそうです。2018年は地震や暖冬といった数十年、数百年に1度の自然イベントがおきた印象深い年でした。2019年はいいい年なる様に願っています。



いい景観はうらやましい限りです。どこの観光地に行ってもやっぱりこの眺めの方がいいと感じて、最近あまりい歩かなくなりました。Kさんは笑いますが、なるほど納得の景色です。

Kさん夫婦の暮らしが、りや食生活のこだわりなどを伺っていると、先月この欄に書いた「ていねいな暮らし」という言葉を思い出しました。長沼はそれが実現できるいい町なんだとあらためて思っています。



グリーンツーリズム・地元産品担当 坂本 一志さん

地域おこし協力隊活動と私 以前、この欄で野口隊員も書いていました。が、地域おこし協力隊の活動は自身の移住・定住

のための活動でもありません。今や地域おこし協力隊は全国各地の自治体で採用されており、これまでに2230人が任期を終えています。しかし、活動終了後は厳しい現実が待っています。総務省のデータによると、全国の地域おこし協力隊が任期終了後にその市町村に定住した割合は48%、起業割合は14%となっています。半数が間を置かず任地を離れており、年数がたつにつれ、転出や廃業も増えていくことでしょう。

我々地域おこし協力隊は、限られた任期の中で計画的に動かなければ、定住・就労(なかならず「起業」という目的を達成することが難しいといえます。世の中には、地域おこ

【移住≠仕事+住居】



移住定住相談を受ける中で住居の問題より仕事の問題が重要と感じることが多い。賃貸で部屋や家を借りる場合、仕事をしているまたは就業の見込みがあるのかという収入の源泉を重視される。移住してきて働き口を探すと、いったんスタイルをとることが難しいです。いまさらながら移住に関する問題については仕事と住居がセットでないといけないと感じています。

【不動産に関する相談】

不動産に関する相談をいつでも受けます! 役場(☎88-2111) 地域おこし協力隊 野口まで事前にご連絡ください。相談にのりますので、よろしくお願います。